2020年3月

中生みかん「きゅうき」の特徴と栽培の注意点

はじめに

温州みかんにおいて、秋期の温暖多雨による浮皮や果皮障害の発生が問題となっている中、県果樹試験場の枝変わり探索により、主力の中生みかんである「向山温州」と比べて、浮皮が少なく、じょうのう膜が薄くて食味良好な「きゅうき」が品種登録されました。

有田管内では、2015年（平成27年）から苗木の植え付けが始まり、栽培面積が年々増加してきています。

これまでの現地や果樹試験場での調査結果をもとに、品種特性及び栽培の注意点を取りまとめましたので、導入や管理作業にあたり、活用いただければ幸いです。

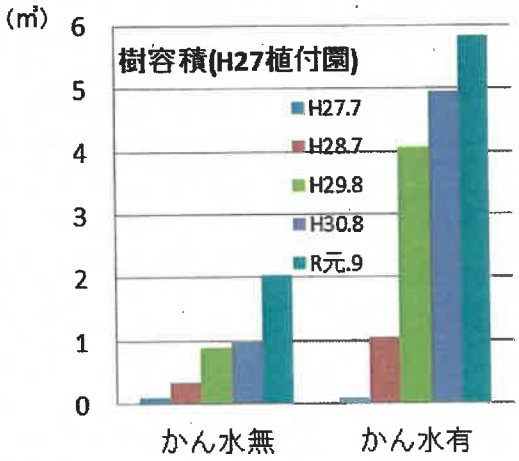
■樹体特性

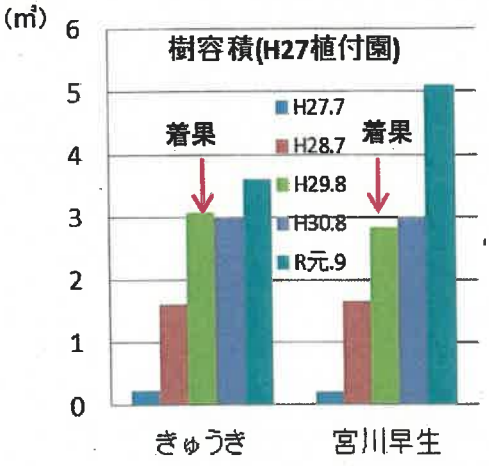
・樹勢は中。強勢な枝の発生は比較的少なく、樹勢は早生品種に似る。
・「向山温州」より節間は短く、葉は小さい。
・根の量は、「宮川早生」、「向山温州」に比べ少ない。

「きゅうき」の原木

「きゅうき」(中央)と他の品種の根量

・苗木の生育は、
①かん水の実施により、順調に進む。　②着果後、緩慢になりやすい。





■果実特性（育成地）

・「向山温州」より浮皮の発生は少ない。
・果実の外観は、やや腰高。
・完全着色期は、12月上旬。
・「向山温州」に比べ、糖度は同程度で、クエン酸含有率は同程度かやや低い。
・じょうのう膜が薄く、早生品種のような食味。

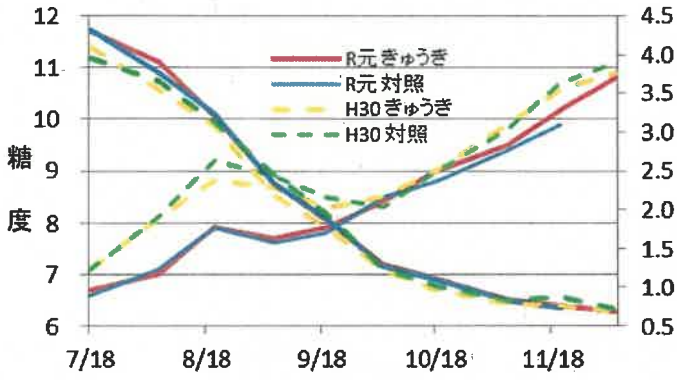
「きゅうき」の果実

」の特徴

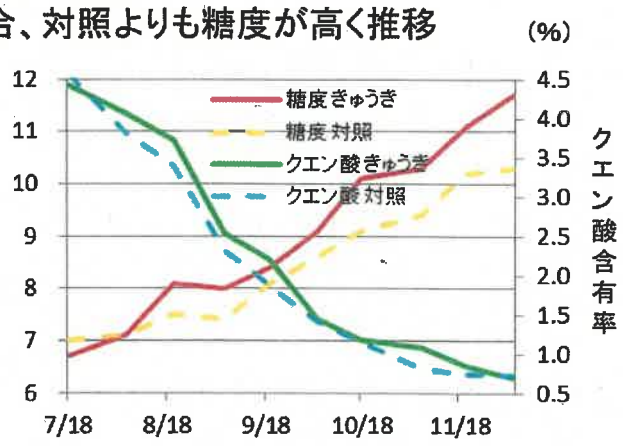
■果実特性（管内改植園）

・「きゅうき」10園
・「宮川早生」及び「向山温州」7園（対照）

○糖度、クエン酸含有率
平成30年、令和元年とも、対照とほぼ同等に推移
同一園地で、ともにマルチを敷設した場合、対照よりも糖度が高く推移



全園地の平均

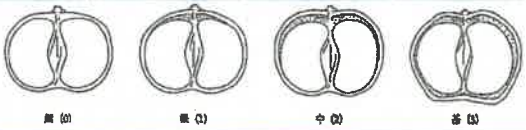


マルチ設置園（R元年）

○浮皮、果皮障害（クラッキング）
平成30年、令和元年とも、「向山温州」より浮皮程度が軽い傾向

	H30.12.7			R元.12.13		
	きゅうき	宮川	向山	きゅうき	宮川	向山
浮皮	0.40	0.32	0.82	0.10	0.26	0.54
果皮障害	0.78	0.66	0.48	0.04	0.06	0.02

・浮皮程度



・果皮障害（クラッキング）
無（0）～甚（3）

○貯蔵性（外観、内部品質の評価）
簡易貯蔵により、1月下旬まで販売可能な品質を維持

	H31.1.31			R元.1.27		
	きゅうき	宮川	向山	きゅうき	宮川	向山
外観	3.5	3.1	3.3	3.2	2.8	2.9
食味	3.4	3.3	3.6	3.1	2.9	2.9

栽培農家、果樹試験場研究員（10名程度）で、5段階［1（不良）～5（良好）］評価

12月上旬に収穫し、倉庫で予措後、透湿性シートで覆い、貯蔵

「きゅうき」栽培の注意点

○苗木植付～着果始めまでの管理

・こまめにかん水した園地は苗木の生育が順調なことから、7～10日間隔でかん水できる設備の導入がおすすめ　【部分改植は失敗のもと！】

・幼木時に着果させると生育が鈍くなるため、植付から2年程度は着果させず、新梢の伸長を優先

・花が着きやすいことから、苗木の生育促進には冬期のジベレリン散布による着花抑制が有効

○着果後の管理

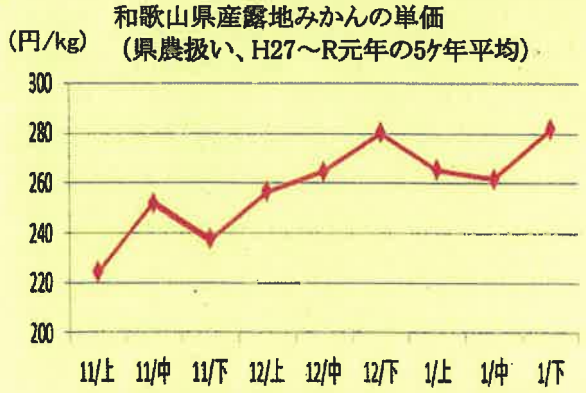
・着果過多になると、翌年の着花が少なくなる場合があり、果実肥大も劣るため、早生品種に準じた摘果を行う必要あり

・マルチ敷設による品質向上効果が期待できるが、かん水設備の設置など、樹勢維持対策を併用

○収穫・貯蔵

・12月上中旬が収穫期だが、秋期の温暖多雨や着果不足の状況では、浮皮が発生する場合があるため、果実の状態を見極め、早めに収穫

・収穫後、透湿性シートを被覆し貯蔵することにより、年末～年明けにかけ出荷することも可能



年末から年明けみかんの
安定出荷による所得向上を

[問い合わせ先]
有田振興局 農林水産振興部 農業水産振興課
有田郡湯浅町湯浅2355－1　TEL:0737－64－1273
和歌山県 果樹試験場
有田郡有田川町奥751－1　TEL:0737－52－4320

（本資料は、平成30年度～令和元年度　農林水産省「新品種・新技術の確立支援事業」により作成しました）